

学校だより



# 井波っ子

令和6年2月22日

南砺市立井波小学校

2月号 第353号

井波小学校HPアドレス  
<https://inami-e.nanto.ed.jp/>

(題字は県書き初め大会出場予定児童)

## 子供の声に耳を傾けて、子供の目線になって・・・

生徒指導主事 酒谷 真美

1月のある朝のことです。その日は気温が低く、あちこちが凍っていました。歩道にも氷が張り、学校へ向かう途中で多くの子供たちが足を取られ、滑ったり転んだりしていました。朝、1人の子供が外で子供を迎えていた校長に駆け寄り、「先生、あの場所が凍っていてとても危ないです。」と教えてくれました。子供の話を聞いて、すぐに確認するとそこにはとても厚い氷が張っていました。融雪剤を使っても氷に多少穴があくだけで、融けることはありませんでした。実は、排水路が歩道より高く、歩道の雪解け水が排水されず厚い氷となっていたのです。教員が出勤時に通らない箇所だったため、危険に気付いていませんでした。子供が気付いて知らせてくれたことによって分かったことでした。すぐに歩道の危険性について市に連絡し、その日以降、気温が低く寒さが厳しい朝は、子供の登校に危険がないか確かめ、注意を呼びかけることができました。



学校で生活をしていると、子供の目線だからこそ気付くことは、今回のように危険なことばかりではありません。心が温まることもあります。例えば、帰りの会で自分の頑張りや楽しかったこと、友達の素敵な姿を話す時間です。1日を振り返る中で、「今日Aさんが日直の仕事を頑張っていてえらいと思いました。」などと、友達の頑張りについて話してくれる子供がいました。日直は、授業や給食の号令、会の進行等多くの仕事があります。この子供は、Aさんがみんなの動きが止まるのを確認してから号令をかけたり、時間を見て着席を促したりしながら教室全体を見て日直の仕事に励んでいることに気づき、素晴らしいと感じたのです。

子供の目線で気付く危険や友達の頑張る姿の話や話を聴くと、ハッとすることがたくさんあります。子供の声に耳を傾け、子供の目線になって、子供たちが互いを思いやり安全に過ごせるように過ごす大切さを日々感じています。

※ 歩道は補修していただけることになりました。

## 「ルールを守ってタブレット端末を活用しよう。」

情報教育担当 笹谷 和生

タブレット端末が導入され、早くも3年が経ちました。現在の6年生は3年生の2月から活用を始めました。子供たちは、使える機能を理解し、操作の技能を身に付けています。授業や家庭学習等、学習面での活用だけでなく、委員会やクラブ活動でも活用される機会が増えてきています。

今年度は、タブレット端末利用のルールを掲示し、何のためにルールがあるのか考える機会をもちました。情報モラルについては、文部科学省が公開している「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」を視聴し、無料通話アプリやSNS、オンラインゲーム等の長時間利用による生活習慣の乱れや不適切な利用によるいわゆる「ネットの使い過ぎ」に陥ってしまうことや、ネット詐欺・不正請求などの「ネット被害」、SNSによるトラブルなどに対応するための方法を学んでいます。

今後は、新しいテクノロジーが生活にもたらす影響を、市民・社会の一員として理解し、インターネットのリスクや落とし穴から身を守るだけでなく、社会のためにデジタル技術を積極活用する方法を学んでいく必要があります。学校では、学習の中でタブレット端末を利用しながら、情報活用能力(文字入力、ファイルの保存、インターネット検索、アプリの利用等)が身に付くように指導しています。情報モラル教育と並行しながら、デジタル・シティズンシップ(デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力)が身に付くように指導していきたいと思っています。